

インドネシアは赤道をまたがる1万7千以上の島と2億4千万の国民からなる国です。GDP 増加率6%台と経済は成長していますが、貧富の差が激しく国民の多数を低所得層が占めます。健康に対する意識も低く十分な保険サービスを受けているとは言い難い状態です。首都ジャカルタから南に 60km のボゴール市にインドネシア赤十字社のボゴール病院があります。日本赤十字社は 2005 年からこのボゴール病院に対して保健医療支援事業を行っています。これまでに医療資機材の提供のみならず赤十字病院の医師、看護師が毎年各々1-3 人派遣され、熱帯病に対する知見を深めながら、地元の医療スタッフと協働して、地元住民の保険衛生などに関してさまざまな助言、指導を行っています。またこの事業は初めて海外に派遣される医療要員に割り当てられ、今後国際救援・開発協力の現場で活動するために必要な知識・技術を身に付ける研修の要素も含まれます。

これまでに外傷センター、ICU、NICU といった分野において機材の整備と医療技術の支援が行われてきて、当院小児科の杉峰先生も平成 19 年に派遣されて NICU などの運用について助言されております。

※専門分野以外では役に立ちませんからあくまで泌尿器科として活動しました。幸いボゴール病院の泌尿器科医はとても協力的で手術への参加も許可され、外来や病棟で患者の病状や検査について説明してくれました。その後日本であればどのようにするかという質問があり、このような議論を通じて社会情勢や経済情勢が医療にいかに関与を与えるか認識しました。またインドネシア赤十字所本社や血液センターを訪問して他国の赤十字社の活動と日本赤十字社がどのように支援しているかについても理解が深まりました。13 日間の現地滞在ではなかなか根本的な部分での助言や指導は出来ず、手術体位や細かい技術、クリニカルパスによる標準化した医療について紹介するにとどまりました。

個人としては異国で医師として働く得難い経験ができました。この貴重な経験を今後泌尿器科医として、派遣要員として生かしていきたいと思っております。



